

## 工事説明書

### 電気温水器 屋内外設置型(通電制御型)

形名 DO-378  
DO-468  
DO-558

#### 【通電制御型】

この電気温水器は申請により、通電制御型として電気料金の割引が適用されます。  
取り替えて機種変更した場合でも電力会社へ申請してください。

この機器は第二深夜電力(5時間)では使用できません。

機器を据付ける前に必ずこの工事説明書をよくお読みの上、正しく据付けてください。

この機器は屋内外設置型ですが、浴室内には絶対に設置しないでください。




なお、この工事説明書は工事終了後、取扱説明書とともに必ずお客様にお渡しください。

#### も く じ





特に注意していただきたいこと	1
付属品の確認	3
外形寸法図	3
据付け	5
給水・出湯・排水配管工事	6
電気配線	9
リモコンの取り付け	13
据付工事後の点検	13
試運転	14

# 特に注意していただきたいこと

- ここに示した事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 <b>危険</b>	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
 <b>警告</b>	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- 絵表示には次のような意味があります。

	一般的な禁止		一般的な危険・警告・注意
	必ず行うこと		アースを接続すること

## 危険

### 浴室に設置しない

屋内・屋外どちらにも設置できますが、浴室には設置しないでください。感電・事故の原因になります。



## 警告

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守ること



据付けや移動は、販売店に依頼すること

お客様自身で据付けをされ、不備があると火災・感電・水漏れの原因になります。



機器は丈夫な設置台(床)に設置すること

満水時の重量に充分耐えられる丈夫な不燃材の設置台(床)に水平に設置してください。強度が不足すると機器が転倒して事故の原因になります。



アース工事をすること

アース工事を確実に行ってください。アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。



電源は単相 200V を使用すること

ヒータ用の電源は単相 200V で、専用の回路が必要です。制御用は 100V を接続することも可能です。「電気配線」の内容を確認してください。200V 電源ブレーカ、電源配線の太さなどは機器にあったものを使用してください。



引火性危険物禁止

引火性危険物(ガソリン、ベンジン、接着剤等)の取り扱い場所、腐食性ガス(アンモニア、塩素、イオウ、酸類)の発生する場所には設置しないでください。



漏電遮断器の動作を確認すること

故障のまま使用すると、感電の原因になります。



## 警告

### 家庭用以外の使用禁止

この機器は家庭用です。業務用には使用しないでください。  
業務用に使用すると保証の対象外になります。



禁止

### 漏電遮断器を設置すること

制御用(昼間電力用)電源配線には、必ず漏電遮断器を設置してください。  
感電するおそれがあります。



必ず行うこと

## 注意

### 機器をアンカーボルトで固定すること

固定しないと機器が転倒し、ケガや事故の原因になります。



必ず行うこと

### 床面の防水・排水処理工事をする

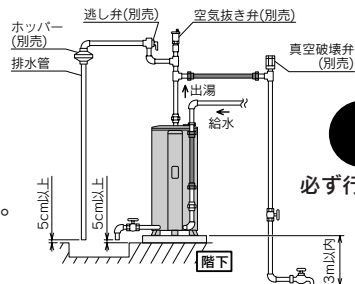
処理しないと水漏れが起きたときに大きな被害になります。



必ず行うこと

### 階下給湯する場合は真空破壊弁を取り付け、 3m以内に設置すること

- 出湯接続口に逃し弁と空気抜き弁を取り付け、逃し弁の排水配管には空気取り入れのためのホッパーを必ず取り付けてください。
- 排水配管は必ず排水溝から5cm以上離して配管してください。
- 出湯配管を機器より下方に配管する場合は、必ず機器設置面から3m以内にして、真空破壊弁を取り付けてください。



必ず行うこと

### 凍結予防工事を行うこと

冬期には配管が凍結して破損することがあります。



必ず行うこと

### この機器は上水道用です

地下水・井戸水・温泉水を使用すると、水質によっては機器の配管内部に異物が付着し、故障することがあります。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。



注意

### 雨や雪が降ったときに水たまりができて水につかるような場所に 設置しないこと

感電することがあります。



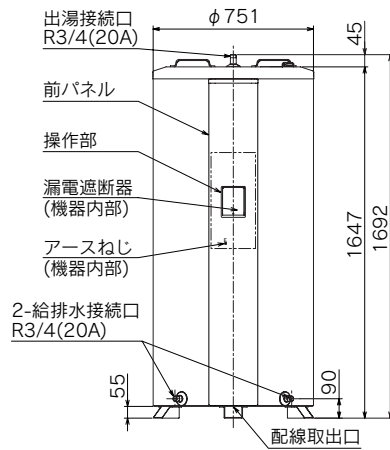
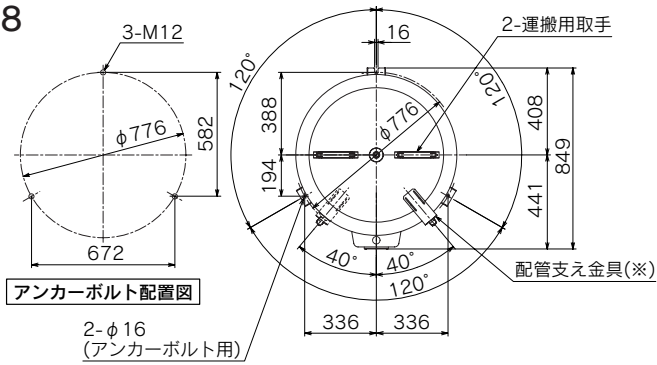
禁止

## お願い

- 屋外で開こんする場合は強風によって機器が転倒するおそれがありますので、風があたらない安定した場所で開こんしてください。
- 転倒するおそれがありますので、機器の木枠底はアンカーボルト・転倒防止金具で固定するときには必ずしてください。
- 運搬するときは前パネルを上にして機器上面の運搬用取手および底面の脚を持って運搬してください。
- 工事をするときに機器上面には上がらないでください。変形します。
- 高層住宅などへの吊り上げ運搬は木枠や本体を直接吊り上げないでください。
- この機器は太陽熱温水器とは接続できません。
- 200V電源ブレーカはすべての作業が終わるまで絶対に「入」にしないでください。
- 給水側の配管工事は水道局指定の水道工事業者に依頼してください。
- 付属品は工事完了まで大切に保管してください。
- 配管接続時は必ずスパナを2丁掛けして行ってください。  
〔締付トルク目安 15.0 ~ 18.9N・m(153 ~ 193kgf・cm)〕
- 配管の保温工事は確実に行ってください。機器や配管が破損して水漏れや、やけどの原因になります。

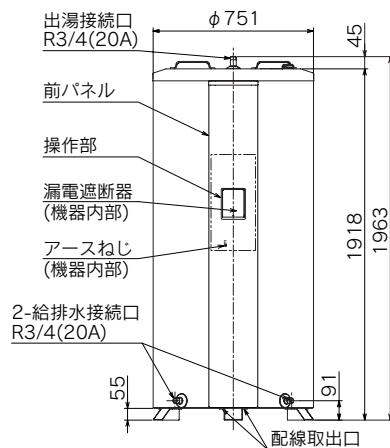
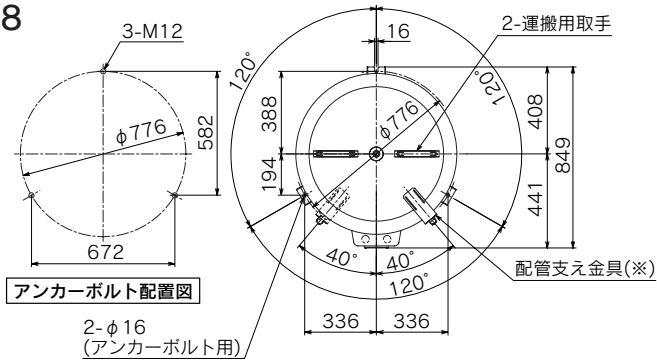


## ● DO-468



(※)配管支え金具は、左側対称位置に取り付け可能です。(単位: mm)

## ● DO-558



(※)配管支え金具は、左側対称位置に取り付け可能です。(単位: mm)

# 据付け

## 1 据付け場所の選定

- 機器を据付ける場合は水道工事、電気工事などの付帯工事のできる場所にしてください。
- 据付け場所を選定するときは、次の事項をよく確認してからお客様と相談して決めてください。

### 軒下など雨水ができるだけかからない場所

- 屋外に設置する場合は軒下など雨水ができるだけかからない場所に設置してください。また、水たまりができて水につかるようなところには絶対に設置しないでください。
- 積雪地域に据付ける場合は、雪を防ぐために小屋かけをしてください。

### 付近に燃えやすいものがないこと

### 床面が不燃性の安定した場所

### 排水のしやすい場所

- 長年ご使用になりますと水漏れを起こすおそれがあります。屋内に設置する場合は必ず防水工事を行い、排水のしやすい場所に設置してください。

### 使用頻度が多い場所の近く

### 設置後の保守・管理の行える場所

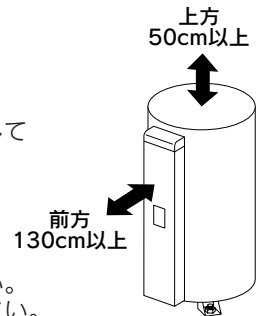
- 機器の周囲には点検・修理のためのサービススペースを確保してください。
- 機器が故障したときや交換時の搬入・搬出ができるように考慮してください。
- 人の出入りの多い場所、階段や避難口の近くには設置しないでください。

### 湿気の少ない場所

### 通気の良い場所

- 室内(機械室など)に設置する場合は通気口を設け、密閉室にしないでください。

サービススペース



## 2 防水・排水工事

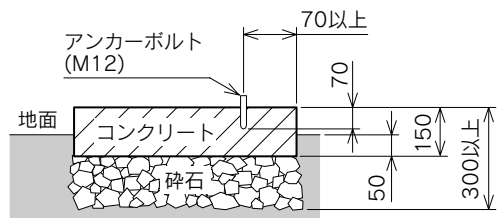
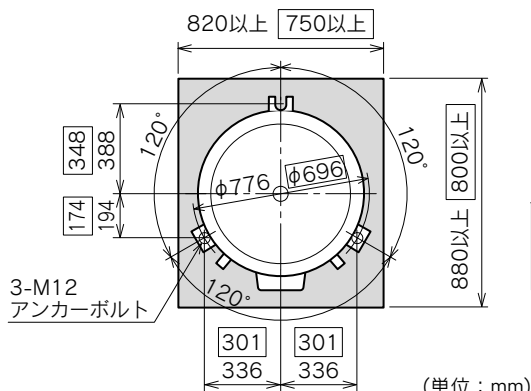
- 長年ご使用になりますと水漏れを起こすおそれがありますので、機器を屋内に設置する場合は防水・排水の基礎工事を行ってください。

## 3 基礎工事

- 満水時の重量に充分耐える基礎工事を行ってください。  
DO-378・・・約 422kg  
DO-468・・・約 517kg  
DO-558・・・約 616kg
- 基礎工事は下図に従ってください。

機種名	基礎の大きさ
DO-378	750 × 800 以上
DO-468 DO-558	820 × 880 以上

(単位：mm)



(単位：mm)

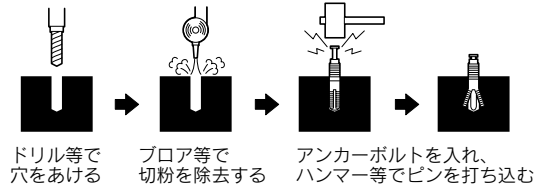
前面

□ はDO-378です。

- 基礎は水がたまらない構造にしてください。水がたまると錆の原因になります。
- アンカーボルトの下穴は【アンカーボルトの下穴寸法】を参照してください。

呼び径	ドリル径(mm)	穴深さ(mm)
M12	12.7	70

【アンカーボルトの下穴寸法】

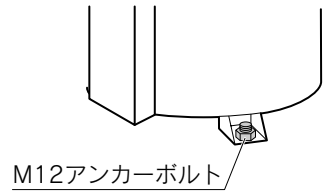


## 4 脚の固定

- 転倒防止のため、脚(3カ所)を土台のしっかりした場所に M12 アンカーボルトで固定してください。

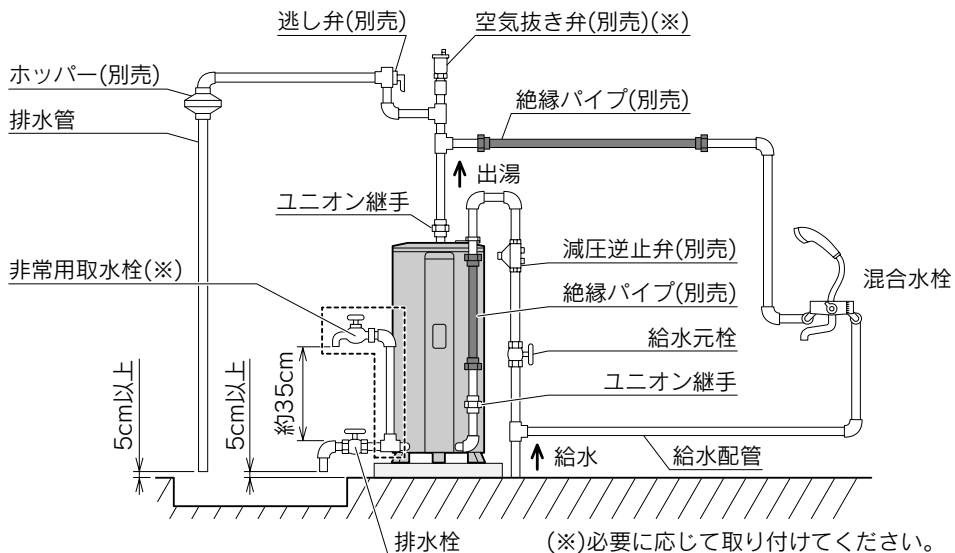
### 後脚の U 字部をアンカーボルトに差し込む

- (1)アンカーボルト(3カ所)を打ち込みます。(上図参照)
- (2)後側のアンカーボルトがU字部の奥位置に着くまで押し込みます。
- (3)アンカーボルト(3カ所)を固定します。



# 給水・出湯・排水配管工事

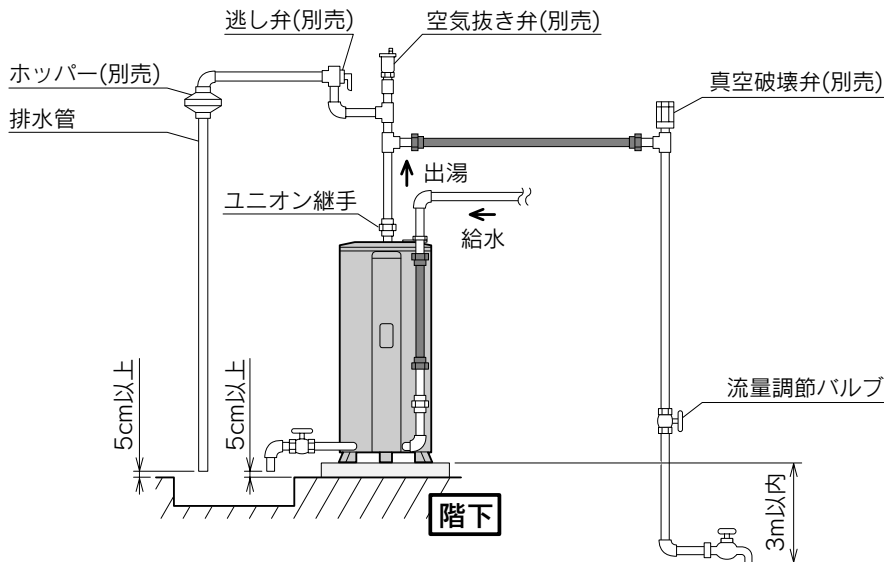
## 配管例



# 給水・出湯・排水配管工事

## 階下給湯

- 階下給湯は1カ所だけです。
- 出湯配管の途中に流量調節バルブを取り付けてください。
- 給湯じゃ口と機器の設置面の高低差は、3m以内にしてください。  
3mを超えると、空気の混ざったお湯が出て飛び散ることがあり危険です。
- 空気の混ざったお湯が出る場合は機器への給水量が不足しています。  
流量調節バルブで給水量と出湯量のバランスを調節してください。
- 真空破壊弁を必ず取り付けてください。



## ⚠ 注意

- 配管工事は各市町村水道局(課)の指定工事店に依頼し、所轄の水道局(課)の規定に従ってください。
- 配管材料、シール材等は各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- 配管はすべて保温してください。
- この機器は上水道用です。地下水・井戸水・温泉水を使用すると、水質によっては機器の配管内部に異物が付着し、故障することがあります。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。

## 1 配管上の注意

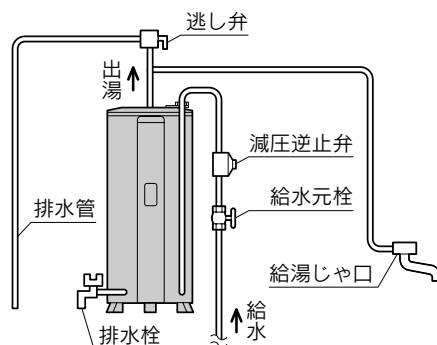
- 上水道に直結する場合は、水道局(課)の認可が必要です。  
詳しくは所轄の水道局(課)に確認してください。
- 配管材料は切断後、必ずバリ取りを行ってから使用してください。  
また接続する前には必ず水を流して配管内のゴミを排出してください。
- 機器の取りはずしができるようにユニオン継手で接続してください。
- 配管を機器に接続する場合は、必ずパイプレンチやモンキーレンチなどを接続口にかけて、機器内に無理な力がかからないように注意して接続してください。
- 金属配管する場合は絶縁パイプ(別売部品)を取り付けてください。  
絶縁パイプの長さは給水側は0.5m以上、出湯側は1m以上必要です。  
耐熱塩ビ管を使用する場合は絶縁パイプは不要です。
- 絶縁パイプは機器と給湯じゃ口の間、および機器と減圧逆止弁の間で最も機器に近いところに取り付けてください。
- 混合水栓はその混合水栓の仕様に従って接続してください。
- やけど防止のため混合水栓はサーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。



- 通電中は貯湯タンク内の膨張水が出ますので、逃し弁の排水管は必ず排水溝まで配管してください。
- 給湯加圧ポンプを使用する場合または階下へ給湯する場合は、必ず真空破壊弁を取り付けてください。
- 耐熱塩ビ管(HT管など)を接着接続した場合は、接着剤が減圧逆止弁の水フィルタ等へ付着しないよう硬化後通水してください。使用する接着剤の種類、使用量、養生時間などは接着剤メーカーの説明書に従ってください。

**接着剤やフラックスが貯湯タンク内に入り、お湯から悪臭が発生した場合は、以下の処置を行ってください。**

- (1)給水元栓を閉じて逃し弁のレバーを上げてください。  
排水栓を開いて約100Lの水を2回程度入れ替え、貯湯タンク内を洗浄してください。
- (2)減圧逆止弁の水フィルタを掃除、または交換してください。
- (3)逃し弁の排水管から1～2分程度排水してください。
- (4)配管内を洗浄するために、各給湯じゃ口から10分程度水を流してください。



## 2 給水配管

- 給水接続口の近くには必ず給水元栓を取り付けてください。
- 配管支え金具で固定してください。

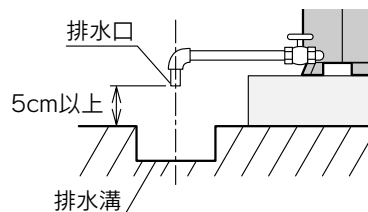
## 3 出湯配管

- 機器は使用頻度が高い場所の近くに取り付け、出湯配管はできるだけ短くしてください。
- 逃し弁は当社純正部品を使用してください。
- 逃し弁の排水配管に空気取り入れのためのホッパーを必ず取り付けて排水溝に導いてください。途中には弁類を取り付けしないでください。  
また、凍結のおそれがある地域では、逃し弁を給水側にも取り付けることをおすすめします。
- お湯の飛散防止のため、別売の空気抜き弁を取り付けることをおすすめします。
- 配管は耐食性のあるステンレス管・銅管などを使用してください。
- 逆止弁付混合水栓を使用してください。  
特に浴室ではやけど防止のためサーモスタット付混合水栓等を使用してください。  
サーモスタット付混合水栓を使用する場合は、構造により出湯量が極端に少なくなる場合がありますので、混合水栓の最低必要圧力、シャワーヘッドなどの仕様を確認して選定してください。
- 手元ストップおよびマッサージシャワーは使用しないでください。
- 継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管にならないようにしてください。

## 4 排水配管

### 注意

- 排水管は必ず雨水等の排水溝に導いてください。
- 排水用の管材は塩化ビニル管(VP管またはVU管)を使用してください。
- 排水される水(湯)が排水溝からこぼれ出ないようにしてください。
- 排水口と排水溝の中心位置を確実に合わせてください。  
中心位置がずれていると、排水時に水が飛び散って床面を濡らすおそれがあります。



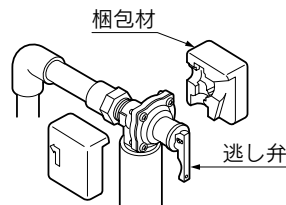
## 5 地震などの災害時に備えた配管工事

- 必要に応じて、非常用取水栓を排水栓手前の上部に取り付けてください。(6ページ「配管例」参照)  
断水時や万一の地震などの災害時に、貯湯タンク内の水を生活用水(飲用は不可)として利用できます。
- お客様に非常用取水栓であることを説明してください。

# 給水・出湯・排水配管工事

## 6 配管の保温工事

- 配管の保温は水漏れテスト後に行ってください。
- 逃し弁は梱包材(発泡スチロール)を使用して保温してください。
- 配管はすべて断熱材で保温してください。
- 地中配管や屋外など雨露のかかる保温箇所、保温材の端面は防水処理を行ってください。

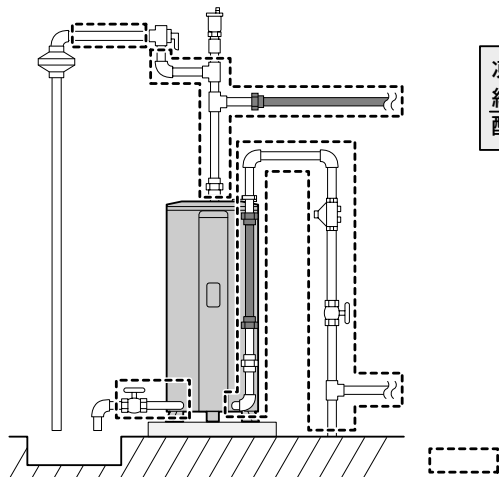


## 7 配管の凍結予防工事

- 保温工事をしていても周囲の温度が0℃以下になると配管は凍結します。機器や配管が破損する場合がありますので、適切な凍結予防対策を行ってください。

### 凍結予防ヒータを使用する場合

- (1)市販の凍結予防ヒータを配管やバルブ類に巻きます。  
サーモスタット部は必ず配管に密着させて取り付けてください。
  - (2)凍結予防ヒータは何本も使用しますので適当な位置にコンセントを設けてください。
- 凍結予防対策とその操作方法をお客様に十分に説明してください。
  - 絶対に配管に水がない状態で凍結予防ヒータに通電しないでください。



凍結予防ヒータは  
約10cm間隔で  
配管に巻いてください。

長期間使用しない場合の凍結予防方法  
をお客様に十分に説明してください。  
(取扱説明書参照)

部に保温および凍結予防対策を行ってください。

# 電気配線

## ⚠ 警告

- 電源配線は束ねたまま使用しないでください。  
また、余った電源配線やアース線は機器内に入れしないでください。火災の原因になります。
- 電源配線がヒータに接触しないように配線してください。

## 1 電気配線上の注意

- 電気配線は指定工事業者に依頼してください。
- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づいて施工してください。
- 絶対に機器に給水する前に漏電遮断器のレバーを「ON」にしないでください。
- 電力会社への申請は適切に行ってください。
- 「深夜電力」契約で使用する場合は、専用タイムスイッチは深夜電力用を使用してください。  
深夜電力の時間帯は電力会社によって異なります。第二深夜電力(5時間通電)では使用できません。

## 2 接地(アース)について



アースをする

- アース工事を確実に行ってください。  
アースが不完全な場合は感電するおそれがあります。
- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づいて、D種接地工事を行ってください。(接地抵抗 100 Ω以下)
- アース端子の位置は次ページの図で確認してください。
- アース棒は地中 30cm 以上の深さに打ち込み、地面に出ないようにしてください。
- アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。

### 埋設に適する場所

- 湿気の多い場所

### 埋設を避ける場所

- 地下埋設物のある場所(ガス管、水道管、地下ケーブル、引込管等)
- 避雷針や電話のアースから 2m 以内
- ガス、酸などで腐食するおそれがある場所
- 人通りの多い場所

## 3 使用電源について

- 電源は単相 200V です。専用の電源回路を設けてください。
- 「深夜電力」契約時の制御用(昼間電力用)電源配線は、100V・200V どちらでも使用できます。

		200V 電源ブレーカ	電源配線の太さ	アース線
「時間帯別電灯」契約	DO-378	30A	5.5mm <sup>2</sup> (φ 2.6mm)	3.5mm <sup>2</sup> 以上
	DO-468	40A	8mm <sup>2</sup> (φ 3.2mm)	
	DO-558	50A	14mm <sup>2</sup>	
「深夜電力」契約 沸き上げヒータ用	DO-378	30A	5.5mm <sup>2</sup> (φ 2.6mm)	
	DO-468	40A	8mm <sup>2</sup> (φ 3.2mm)	
	DO-558	50A	14mm <sup>2</sup>	
「深夜電力」契約 制御用(昼間電力用) リモコンを接続する場合のみ		15A または 20A	φ 1.6mm	

- 「契約電力制度」および「リモコンのあり・なし」に応じて制御基板の切替スイッチの設定が必要です。試運転の項を参照してください。

14・15 ページ

- 設定は試運転時に行ってください。

- この機器を「時間帯別電灯」契約で使用する場合は、別売のリモコンが必要です。  
また「深夜電力」契約で、制御用(昼間電力用)電源配線を接続することで、リモコンの使用が可能になります。
- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくても工事はできますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- リモコンコードは、200V電源ブレーカを「切」にした状態で接続してください。  
また、制御用(昼間電力用)電源配線を接続している場合は、制御用漏電遮断器も「切」にしてください。

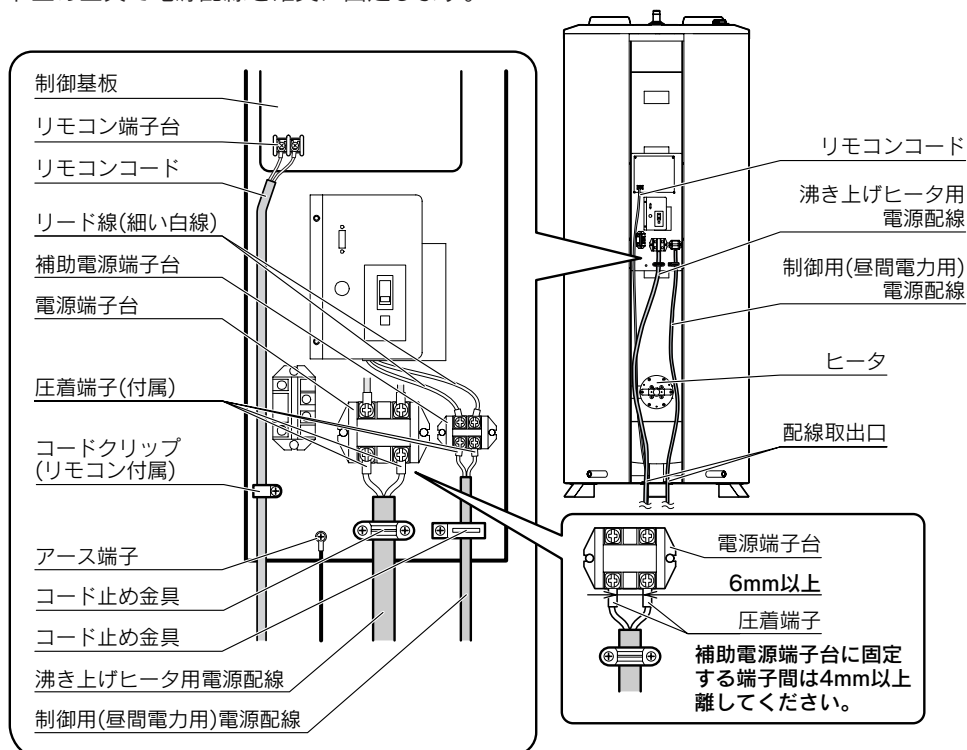
電力契約	リモコン有無	制御用(昼間電力用)電源配線
時間帯別電灯	必須	不要
深夜電力	有り	要
	無し	不要



## 「深夜電力」契約で、リモコンを使用する場合

内部配線の変更が必要です。

- (1)電源端子台に接続してあるリード線(細い白色)をはずし、補助電源端子台に確実に固定します。
- (2)制御用(昼間電力用)電源配線を配線取出口から通し、補助電源端子台に導きます。
- (3)補助電源端子台の下側に付属している圧着端子をはずし、制御用(昼間電力用)電源配線にカシメ工具でかした後、補助電源端子台に確実に固定します。
- (4)沸き上げヒータ用電源配線を配線取出口から通し、電源端子台に導きます。
- (5)電源端子台の下側に付属している圧着端子をはずし、沸き上げヒータ用電源配線にカシメ工具でかした後、電源端子台に確実に固定します。
- (6)コード止め金具で電源配線を確実に固定します。



- イラストはDO-558です。
- 電源配線とリモコンコードが、ヒータ端子に接触しないように注意してください。
- 電源配線は機器内部でたませないでください。  
沸き上げヒータ用電源配線を電源端子台に固定するときは、端子間を6mm以上離してください。  
制御用(昼間電力用)電源配線を補助電源端子台に固定するときは、端子間を4mm以上離してください。
- 制御用(昼間電力用)電源配線は、100V・200Vどちらでも使用できます。

### ⚠ 警告

制御用(昼間電力用)電源配線には、必ず漏電遮断器を設置してください。  
感電するおそれがあります。

# リモコンの取り付け

## ⚠ 警告

- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくてもできますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- リモコンコードは200V電源ブレーカを「切」にした状態で接続してください。
- リモコンコードが機器内のヒータに接触しないように配線してください。
- 余ったリモコンコードは機器外でまとめ、機器内に入れないでください。  
また、リモコンコードを切断して使用する場合は、樹脂スリーブ付きのY型端子を使用してください。

リモコンの取り付けは、リモコンに同梱されている「工事説明書」をご覧ください。

## 機器との接続（「電気配線」の項も参照してください。）

◀ 9～12 ページ

- 1 前パネルのねじ(8個)をはずして前パネルをはずします。
- 2 リモコンコードを配線取出口から通し、リモコン端子台に導きます。
- 3 リモコンコードをリモコン端子台に接続します。  
リモコンコードは無極性ですので、どちらに接続してもかまいません。
- 4 付属のコードクリップとねじで、リモコンコードを固定します。

# 据付工事後の点検

- 据付工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

## 1 機器およびその周辺

- 設置条件を満たしていますか。
- 周囲に引火性のものはありませんか。
- 据付け床面の防水、排水工事はしてありますか。
- 点検・修理など保守・管理上必要な空間がありますか。

## 2 給水・出湯配管

配管方法は設置する地域の基準に従っているか、特に次の点を確認してください。

- (1) 専用の給水元栓はついていますか。
- (2) 混合水栓の給水はその混合水栓の仕様に従っていますか。
- (3) 絶縁パイプの取り付けは正しいですか。
- (4) 逃し弁、減圧逆止弁、絶縁パイプ、その他の配管接続部に水漏れがありませんか。
- (5) 減圧逆止弁、逃し弁の取付方向、取付位置は正しいですか。
- (6) 逃し弁のレバーを手で開閉し、排水・止水が正常にできますか。
- (7) 配管は保温されていますか。寒冷地の場合は凍結予防ヒータ等を取り付けてください。

## 3 電気配線工事

- D種接地工事はされていますか。
- 電源配線はコード止め金具で確実に固定されていますか。
- 電気配線工事は指定された工事で行われていますか。

# 試運転

- 試運転はお客様と一緒に行ってください。

## 注意

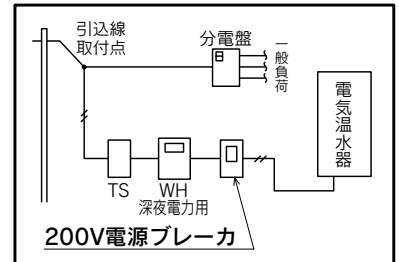
- 通電は機器が満水(給湯じゃ口から水が出る事)になってから行ってください。

### 1 試運転 「取扱説明書」も参照してください。

- (1)機器を満水にします。
- (2)電力供給を確認します。(漏電遮断器の確認)
  - ・漏電遮断器は万一漏電したときに自動的に電源を切る安全装置です。次のように点検してください。
  - ・「深夜電力」契約の場合は、電力会社の了解を得て専用タイムスイッチを通電状態にしてください。
  - 1. 200V 電源ブレーカを「入」にしてください。
  - 2. 200V 電源の供給を確認してください。
  - 3. 操作部のふたを開き、漏電遮断器のレバーを「ON」にしてください。
  - 4. 漏電遮断器のテストボタンを押して、レバーが「OFF」になれば正常です。
  - 5. 漏電遮断器のレバーを「ON」にしてください。
- (3)通電を確認します。

#### 1. リモコンを接続していない場合

200V 電源ブレーカを「切」にして、再度「入」にしてください。  
運転ランプが点灯し、制御基板上の警報ランプ(赤・緑)が点滅すると、ヒータに通電を開始します。  
運転ランプが点灯しない場合はそのまま 20 秒以上待ってから 200V 電源ブレーカを「切」にし、再度「入」にしてください。  
機器内の漏電遮断器を操作しても上記の通電確認はできません。

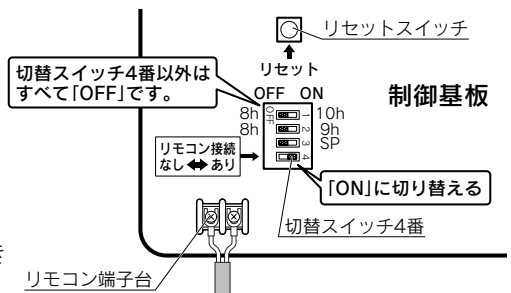


#### リモコンを接続している場合

- ①制御基板の切替スイッチ 4 番を「リモコンあり」(ON) に切り替え、リセットスイッチを押してください。

- 工場出荷時は「リモコンなし」に設定されています。
- 「リモコンなし」設定の状態でもリモコンを接続すると、エラーコード 760(通信異常)になります。
- リモコンを接続しない状態で、「リモコンあり」設定にすると動作しません。
- 切替スイッチ 4 番以外はすべて「OFF」です。

- ②リモコンの沸き増しスイッチを押すとリモコンの沸き上げ表示が点灯し、ヒータに通電を開始します。



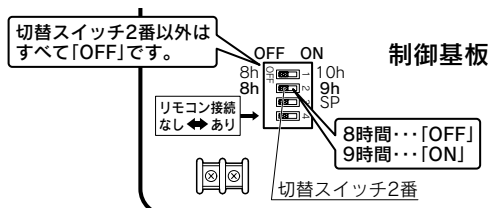
2. 電力量計が回転していることを確認します。

- (4)契約電力制度を設定します。

#### リモコンを接続していない場合

制御基板の切替スイッチ 2 番で設定します。  
深夜時間が 8 時間の場合・・・「8h」(OFF)  
深夜時間が 9 時間の場合・・・「9h」(ON)

- 工場出荷時は 8 時間に設定されています。
- 切替スイッチ 2 番以外はすべて「OFF」です。



リモコンを接続している場合・・・取扱説明書に従って設定してください。

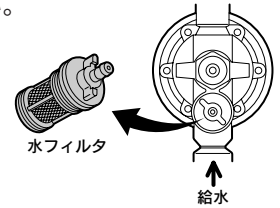
# 試運転

(5) 現在時刻を設定します。

リモコンの現在時刻を設定してください。(リモコンを接続している場合のみ)

「深夜電力」契約の場合は、専用タイムスイッチを現在時刻に合わせてください。

- 「深夜電力」契約の場合、設置当日はお湯を使用できません。
- 試運転終了後は前パネルを閉じ、給水元栓を閉じ、逃し弁のレバーをゆっくり上げてから、減圧逆止弁のフィルタを取りはずして掃除してください。掃除後はフィルタを元通りに取り付けてください。



## 2 お客様がすぐに使用されない場合

- 試運転後に機器や配管内に残った水をお客様が使用されるまで放置すると、凍結して機器や配管が破損したり、機器内の水が変質することがありますので、「取扱説明書」に従って水を抜いてください。

## 3 お客様への説明

- 取扱説明書に従って取扱方法をお客様に説明してください。
- 保証書に必ず必要事項をご記入のうえお客様にお渡しください。また、取扱説明書に従って、「アフターサービス」について説明してください。

住宅設備機器総合メーカー  
株式会社 長府製作所



●本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1 ☎(083)248-1111  
FAX (083)248-1906